

平成25年度徳島大学総合科学部学部長裁量経費

総合科学部創生研究プロジェクト実践報告

グローバリズムとモラエス

—モラエスが世界に広げた〈徳島の自然・人・心〉の再構築—

宮崎隆義, 石川榮作, 佐藤征弥, 境泉洋

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

E-mail: miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp

A Report of the Project Studies in 2013:

Globalism and Moraes

—Reevaluation of Nature, People and Heart of Tokushima in the World
through W. de Moraes—

Takayoshi Miyazaki, Eisaku Ishikawa, Masaya Satoh, Motohiro Sakai

Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima

1-1 Minami Josanjima-cho, Tokushima, 770-8502, Japan

E-mail: miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp

Abstract

This report is a record of the activities in 2013 of Moraes's Studies Group launched in July 31, 2010. The members of Moraes's Studies Group, T. Miyazaki (English Literature, Comparative Literature), E. Ishikawa (German Literature, Comparative Literature), M. Satoh (Plant Physiology), M. Sakai (Clinical Psychology), all at the Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima, have been continuing analytical research on Moraes's works and trying to open new facets of Moraes's biographical aspects, including the activities of organizing exhibitions and lectures on Moraes.

As the basic activities we organized and have been organizing regular meetings every month or every two months, reading Moraes's *O "Bon-odori,, em Tokushima, Ó-Yoné e Ko-Haru*, and *Relance da Alma Japonesa*.

Our activities are still going on and developing with the cooperation with other local groups in Tokushima and Kobe.

Key Words: Wenceslau de Moraes, Globalism, Tokushima, *Ó-Yoné e Ko-Haru*, Moraes's Studies

1. はじめに

本報告は、徳島大学総合科学部学部長裁量経費・平成 25 (2013) 年度総合科学部創生研究プロジェクトによる研究成果の報告である。

研究プロジェクト名は「グローバリズムとモラエス—モラエスが世界に広げた徳島の〈自然・人・心〉の再構築—」であり、研究プロジェクト参加者は、大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の石川榮作(ドイツ中世文学, 比較文学), 佐藤征弥(植物生理学), 境泉洋(臨床心理学), 宮崎隆義(英文学, 比較文学)の4人で、石川を除く3人はいずれも平成 21 年度, 22 年度, 23 年度に開講した、徳島大学大学院総合科学教育部博士課程前期での共通科目「プロジェクト研究 I」の担当者であった。

本研究プロジェクトの目的は、プロジェクトの遂行にあたって、母体となっている「総合科学部モラエス研究会」の基本的な活動として定例に開いている例会・読書会での成果を基に、モラエスの著作について新たな考察を加えて論考を公表すること、及び県内の関係団体とともにモラエスの顕彰活動を行なうことである。

2. モラエス研究会—平成 25 年度の活動記録—

本研究プロジェクトは、平成 24 年度に引き続いて採択を認められたものであるが、平成 24 年度に立てた将来計画を踏まえつつ平成 25 年度の年度計画を立てて具体化した。先述したように「総合科学部モラエス研究会」の基本的な活動として、研究例会・読書会を毎月 1 回程度開催することを目標として、以下のよう

研究例会・読書会の実施状況 (平成 25 年度分)

- ・平成 25 年 5 月 18 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 25 年 6 月 29 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 25 年 7 月 27 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 25 年 8 月 31 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 25 年 10 月 12 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 25 年 12 月 14 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 26 年 1 月 25 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 26 年 3 月 8 日 【研究会例会・読書会】
- ・平成 26 年 3 月 29 日 【研究会例会・読書会】

毎回の読書会では、平成 24 年 (2012) から題材として使用していたモラエスの『おヨネとコハル』(岡村多希子訳, 彩流社, 1989 年) を題材として取り上げ継続した。例会・読書会では、これまでのように教員が作品中で気づいたことを提示して、参加者相互で議論しながら、地元の参加者たちの記憶にある昔の状況などを貴重な情報として教示提供していただいた。

その研究成果として、論文及び報告書を『徳島大学地域科学研究』第 3 巻に以下のように刊行している。

- ・論文「モラエスの三つの絵葉書書簡集—絵葉書書簡からみえるモラエスの生活圏, 旅行, 信仰について—」(佐藤征弥・高木佳美・石川榮作・境泉洋・宮崎隆義)
- ・論文「モラエスの庭—(3) 異邦人のまなざし—」(宮崎隆義・佐藤征弥・境泉洋)
- ・実践報告: 平成 24 年度徳島大学総合科学部学部長裁量経費総合科学部創生研究プロジェクト成果報告「モラエスの庭—徳島の自然・人・心—」(宮崎隆義・佐藤征弥・境泉洋)

また、平成 25 (2013) 年 12 月 1 日に明治大学駿河台キャンパスにて開催したシンポジウムの報告書として以下のものが 2014 年 3 月 1 日に徳島大学より刊行された。

- ・報告書: 『明治大学・徳島県・徳島大学連携講座: ポルトガルの文豪モラエス シンポジウム〜「美しい日本」をこよなく愛した異邦人〜』(石川榮作・桑原信義・宮崎隆義・佐藤征弥・山田朗)

3. モラエス顕彰—平成 25 年度の活動記録—

本研究プロジェクトに関連するモラエス顕彰事業として、2013 年は、モラエスが徳島に來住して 100 年という節目であったので、それに合わせて以下のような関連事業を展開した。

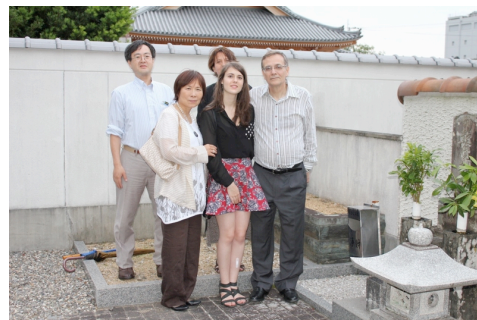
7 月 28 日には、神戸の NPO 法人神戸外国人居留地研究会との合同研究会を開いた(7 月 29 日徳島新聞報道)。

モラエス徳島来住100周年記念行事
 NPO法人神戸外国人居留地研究会
 徳島大学総合科学部モラエス研究会
 合同研究会
 日時：2013年7月27日(土)

(午前の部)
 「モラエスゆかりの地見学」
 神戸居留地研究会の方々と、モラエスゆかりの地を見学します
 10:30 阿波おどり会館前出発
 昼食は「おんぼの湯」で食卓とします
 (申し込み必要、参加にかかる交通費と昼食代1500円程度がかかります。)

(午後の部)
 「研究発表会」
 総合科学部1号館南棟
 3階 第1会議室
 13:30 研究発表1
 発表者名氏、神戸居留地研究会、神戸大学名誉教授：「モラエスとハーン」(2013年) 発表者：山本 隆一
 14:30 休憩 (中継機が壊れたため)
 14:45 研究発表2
 徳島大学にモラエス日本文化センター設立、神戸居留地研究会：「モラエスとハーン」(2013年) 発表者：山本 隆一
 17:00 懇談会 場所：徳島大学学生食堂 (申し込み必要、懇談会費4000円程度。)

徳島大学総合科学部モラエス研究会 寄附税義 (代印)
 〒770-8502 徳島市南東二丁目 徳島大学総合科学部
 電話・Fax 0876-650-7101



潮音寺の墓参

11月16日には、日本比較文学会第49回関西大会を総合科学部で開催し、シンポジウム「モラエスとハーン—生へのまなざし、死へのまなざし—」を企画実施した(11月17日徳島新聞報道)。

また、本研究プロジェクトに間接に関連するものとして、7月1日のモラエス忌に、モラエスの従兄弟の子孫来訪も実現できた(7月2日徳島新聞報道)。

これは、総合科学部のホームページにリンクしている(<http://d.hatena.ne.jp/iasmoraes/>)「モラエス研究会」がきっかけで、慶應義塾大学の中村美代子氏の恩師であり共同研究者のベルギー自由大学ジョゼ・モライス(José Morais)名誉教授がモラエスの遠縁の子孫であることがわかり、モライスは教授の来日及び来徳の望みが叶ったことによるものである。モライスは教授とはモラエス研究についての情報交換をおこなっているが、氏の知人からの資料提供やそのポルトガル語資料の英訳について、ポルトガルとの人的・文化交流ができ継続している。



12月1日には、明治大学・徳島県・徳島大学連携講座としてシンポジウム「ポルトガルの文豪モラエス〜「美しい日本」をこよなく愛した異邦人〜」を実施した(12月2日徳島新聞報道)。



モラエス忌の様子



2014年3月8日には、元在ポルトガル大使四宮信隆氏を招いての特別講演とモラエスのシンポジウムを実施した(3月9日徳島新聞報道)。

このような「総合科学部モラエス研究会」によるモラエスの顕彰事業により、モラエスのことがマスコミで報道された効果として、「総合科学部モラエス研究会」の知名度も上がり研究会例会・読書会への参加者も徐々に増えつつある。また、研究会代表の宮崎による活動として、放送大学学びの森講演会「『モラエスの徳島』〜100年前モラエスが見たもの〜」(9月28日:徳島県立図書館)、徳島城博物館平成25年度阿波の文学と歴史セミナー「阿波人物万華鏡」:「W. de モラエス 徳島への想い」〜100年前モラエスが見たもの〜」(12月20日:徳島城博物館)、鳴門教育大学附属中学校講演会「グローバル化時代と異邦人モラエス〜100年前モラエスが見たもの〜」(10月31日:鳴門教育大学附属中学校)、大阪日本ポルトガル協会での講演会「関西のモラエス〜絵葉書書簡から〜」(大阪日本ポルトガル協会第76回例会:2014年2月21日:ウェスティンホテル大阪)などを実施しており、これによってモラエスを知る人が徐々に増えつつある。また、平成26年度には四国コンソーシアムのe-learningの授業に「モラエスの徳島〜グローバルズムと異邦人〜」を企画し、後期に開講することが決定している。

4. 今後の展望

神戸のNPO法人神戸外国人居留地研究会や、大阪、東京の日本ポルトガル協会とも連携が取れる体制ができあがっており、また、「総合科学部モラエス研究会」のブログが縁で、モラエスの遠縁の子孫でモラエスの研究も行っている研究者やその関係者とも連絡と連携体制が整いつつある。こうした取り組みと本研究計画とが連動して、さらなる研究のテーマが生まれ、参加者のそれぞれが自分の立場から取り組んでおり、新たなモラエス研究の論文集や資料集などを刊行することを計画している。

本研究プロジェクトは、中期計画を念頭に置き、地域科学の一側面として、徳島の歴史や文化の諸相を再発見すべく、グローバルな視野から徳島の自然・人・心を眺め、モラエスにとって徳島が何であったかを軸として、ポルトガル、そしてヨーロッパに伝えられた「徳島」を、モラエスがとらえた徳島の「自然」、「人」、「心」を読み取りながら再構築することを目的とした。参加者がそれぞれの専門分野から検討を加え考察し比較しつつ、モラエスの作品分析から読み取るという基礎的な作業や、資料の調査並びに確保を現在も継続している。だが、まだ不十分なものであり、現時点ではまだ継続中の研究プロジェクトであると考えられるが、モラエスの親戚筋の子孫一家を招き、モラエスに関する情報交換やモラエス忌への参加を実現できたことは、本研究計画の名称にまさに合致する成果であったと言える。さらに多方面との関わりについては、モラエス会や徳島日本ポルトガル協会との繋がりを一層強固なものにしつつ、大阪日本ポルトガル協会、NPO法人神戸居留地研究会、ロータリークラブなどとの連携並びに協力関係が出来上がりつつある。また、徳島県立文学書道館や図書館、文書館、徳島市立図書館等との連携も得られている。「総合科学部モラエス研究会」としての活動により、例会の参加者から貴重な情報を得ることができ、それを本研究の成果発表に活かすことができる状況ができつつある。また、地元の文化的な遺産ともいえるモラエスを、若い世代に伝えたいということがあり、学生の参加も得られているので、さらに広げてゆきたい。今後さらに研究を通してモラエスの作品についての十分な紹介を図ることによって、学生や地域の市民、さらには他の地域に対してもモラエスを軸とした文化継承並びに地方創生が行えると考えられる。